

# 2020年東京五輪 文化プログラム ビジョンといくつかのアイデア

吉本光宏 | ニッセイ基礎研究所

TOKYO  
2020

## ビジョン： 文化の国「日本」の再発見と国際的アピール

- 多様な価値観の共存する(渾然一体となった)文化のあり様を世界各国と共有(伝統の国 + 未来の国、アーティストの創造力 + 市民の創造力、ハイカルチャー + サブカルチャー、日本的なるもの + 海外起源のもの...)
- 文化による地域活力の創出を全国展開。
- 世界の芸術文化の振興への寄与・貢献。
- 文化(+スポーツ)に支えられた超高齢社会、成熟社会の新たなモデルを世界に提示。

TOKYO  
2020

1

## アートサイト日本2020

- 全国各地の文化的リソース2,020件（各都道府県約40件）を選出し、日本文化の多様性とポテンシャルを世界にアピール
- 2020年東京五輪を東京だけのイベントに終わらせない。
- 文化観光、地域の活力創出につなげる。

時間軸（伝統から現代）

×

分野軸（芸術文化から食文化）

に基づいて幅広く選出

お祭り、伝統芸能、生活文化（茶道、華道、書道...）、現代芸術（美術、ダンス、演劇、音楽...）、サブカルチャー、ストリートダンス、アニメ、映画、メディア芸術、トリエンナーレ/ビエンナーレ、芸術フェスティバル、（街中展開型）アートプロジェクト、ゆるキャラ、オタク文化、アマチュア文化活動（参加・体験）、伝統的町並み、農山村、棚田、漁村、和食、寿司、日本酒、ヌーベルキュイジン、最高級食材（例：松阪牛、〇〇さんのつくったイチゴetc.）、B級グルメ.....等々

JAPAN // THINGS NOT TO MISS

## #06 NAOSHIMA

ONE OF THE BEST PLACES TO EXPERIENCE THE BEAUTY OF THE INLAND SEA IS THIS TRANQUIL ISLAND, WITH ITS AMAZING CONTEMPORARY ART MUSEUMS, PUBLIC SCULPTURES AND INSTALLATIONS.

出典: Rough Guide社HPより

- 4年間のカルチュラル・オリンピアードを活用して専用サイトを構築
- 日本文化ミシュラン、観光庁と連携（日本文化ブリジストン？）
- 2020年五輪参加国・地域全てに対応した多言語サイト（おもてなし）
- 2020年五輪終了後のレガシーとして継続・更新

参考: Rough Guide社(英国トラベルガイド)による日本の必見スポット

1. 京都
2. スキー(北海道ニセコ、野沢温泉)
3. 築地
4. 札幌雪祭り
5. 奈良
6. 直島
7. 広島
8. 高野山
9. 歌舞伎
10. 木曾谷
11. 会席料理
12. 屋久島
13. 富士登山
14. 旅館宿泊
15. 阿波踊り
16. 相撲
17. 日光
18. 熊野古道
19. 温泉
20. 酒蔵(小布施、高山)

# クリエイティブ・フロント東京 / 日本

TOKYO  
2020

2

- 芸術の未来を創る。
- 国内外のアーティストにプロポーザルと新作委嘱を大々的に実施。
- アーティストの夢の実現できる都市「東京」、世界の芸術を牽引する国「日本」の実現。

世界の都市総合ランキング[森記念財団、2013年10月]

- 1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位パリ、4位東京、5位シンガポール、6位ソウル...
- 文化・交流(1位ロンドン:348.0、8位東京:150.3) > 世界トップレベルの公演、展覧会開催
- 2012年ロンドン五輪:204ヶ国から4万人以上のアーティストが参加、新作委嘱5,370作品

芸術の消費地から生産地への転換 → 芸術文化の振興に対する国際貢献

- 日本人アーティストと外国人アーティストもしくは外国人アーティスト同士のコラボレーションを奨励し、東京2020から新しい芸術創造の国際的な潮流を生み出していく。
- 日本とアジア諸国との共同制作を推進し、アジアにおける文化的ハブの形成につなげ、日本がアジアから世界に向けた芸術創造・発信の牽引車的な役割を担う。

# 日本人は皆アーティストだ！

TOKYO  
2020

3

- 老いても文化(とスポーツ)で豊かで元気な国日本をアピール
- 成熟社会の新たなモデルを世界に提示
- 西欧型文化政策(アーティスト起点) + 日本型文化政策(市民起点)への転換

World City Cultural Summitで明らかになった東京(日本)の文化的特性・強み

[2012年ロンドン五輪の文化プログラムの一環として開催、世界主要12都市の文化的特性を比較]

- 古くから市民が多様な芸術・文化活動に深く関与してきたこと
- 市民自身が芸術の消費者(鑑賞者)であると同時に芸術の創造者(芸術家)であること
- ハイカルチャーと大衆文化の境界が曖昧であること
  
- 一般家庭の保有するピアノの台数:83万台
- お茶やお花を日常的に楽しんでいる市民の数:46万人
- アマチュアのダンススクールの数:748件
- 新聞の発行部数:540万部で主要紙には俳句コーナー

TOKYO  
2020

3

## 日本人は 皆アーティストだ！

1. 鳴り響け1,000万台のピアノ
2. 250万人の歓喜の歌
3. 日本縦断 BON Dance !

.....

1. オリンピック開会に合わせ、日本全国の一般家庭、学校、劇場・ホール、福祉施設、病院等々のピアノを一斉に演奏(開会式セレモニーの一環)
2. パラリンピックの閉会に合わせ、全国で第九を演奏。2020年はベートーベン生誕250年
3. オリンピックとパラリンピックのインターバルに全国各地で既存の盆踊り＋新作(復活)盆踊りを展開



高齢者、障がい者、老若男女の参加により「老いても文化で豊かに元気な日本」をアピール

日本版UNLIMITED(ロンドン五輪の障がい者アートフェスティバル)

TOKYO  
2020

## 2020年に向けて クリアすべき課題

1. 組織
2. 財源

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
  - 東京都(芸術文化評議会)、文化庁
  - 全国都道府県・市区町村
  - 民間企業、スポンサー企業
  - 芸術団体、アーティスト、文化施設、アートNPO etc.
  
- 参考(2012年ロンドン五輪)
  - 組織委員会(Cultural Olympiad Board, Artistic Director, Festival Team, Producing Partners) + アーツカウンシル + ロンドン市
  - 220億円(組織委員会:58億、アーツカウンシル・イングランド:62億、レガシートラストUK(宝くじ基金):61億、ロンドン市:8億円、Co-funding:28億)
  - スポンサー企業:プレミア・パートナー(英国石油、英国テレコム)、サポーター(BMW、ユーロスター、フレッシュフィールズ、パナソニック、サムスン)

TOKYO  
2020

## 2020年に向けて クリアすべき課題

### 3. 東京都の文化政策

2020年を通過点とした文化的レガシーの構築

- 文化事業
  - ・ 五輪招致に向けて創設してきた東京文化発信プロジェクトの継続、強化、再整理
- 文化施設
  - ・ 大規模改修の完了
  - ・ 2020年五輪を契機にした事業（組織・財源）の強化・継続
- 組織体制
  - ・ アーツカウンシル東京の財団からの独立と強化
  - ・ 東京都（東京芸術文化評議会）  
＋歴史文化財団（文化施設運営）  
＋アーツカウンシル東京（助成を中心とした文化専門機関）
  - ・ 参考（年間助成額）：  
アーツカウンシル東京：1.5億円  
ニューヨーク州アーツカウンシル：36億円